

あけましておめでとうございます。今年も、すべての人が人として大切にされる社会の実現にむけて力をあわせましょう

新年明けましておめでとうございます。

去年 1 年間、新型コロナウイルスの感染拡大の中私たちの生活は大きく変わってしまいました。まだまだ収束が見えないコロナ禍の中、新しい年を迎えることになりました。



今も続く新型コロナウイルスの感染は、これまで国が進めてきた医療提供体制改革や公衆衛生政策、そして保健政策など様々な問題点を明らかにしてきました。

例えば、公立・公的医療機関に関しては、感染症病床の 6 割は公的病院が担っており、重要な役割を果たしています。しかし、国は地域医療構想の実現のために公立・公的医療機関の再編・統合を進めようとしています。新型コロナウイルスのような感染症など、民間医療機関では十分に対応できない医療を公的医療機関は提供し、国民の命を守るという大切な役割があります。それを今の国の改革では削減し縮小しようとしています。

また、私たち市民の最も近くにあつて、感染症対策を展開すべき自治体の公衆衛生政策は、1994 年の保健所法の廃止以降脆弱化しています。京都市においても、以前は行政区ごとのにあつた保健所が廃止され、中央に集約され、どんどん行政が市民から離れてしまっています。

医療保険制度では、後期高齢者の窓口負担の 2 割化が進められています。また、高すぎる国保料を払えず、経済的理由で医療が受けられなくなっている患者さんもいます。誰もが必要な時に必要な医療を受けられる、そんな日本の皆保険制度、フリーアクセスが新型コロナウイルスの感染を今の状態に押しとどめていることは明らかであり、これを崩そうとする国の政策にたいして、みんなの力を集めて「いのちの署名」を力に闘っていかねばなりません。

これまで進められてきた新自由主義改革によつてもたらされた雇用の破壊の現状も新型コロナウイルスが明らかにしました。そして新型コロナウイルスの感染拡大が非正規労働者を中心に重くのしかかってきます。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大で、これ以外にも様々な問題が浮き彫りにされています。私達は、これまで進められてきた社会保障の削減政策を止め、新しい福祉国家を求め、社会保障の充実を追求していく 1 年以なければなりません。

今、私たちの本質、生き方が問われています。全ての人たちが持つ最強の優しさで包み込む、そんな思いを皆さん共に持ち続けていきましょう。